

2月作物管理指針

あいら伊豆農業協同組合

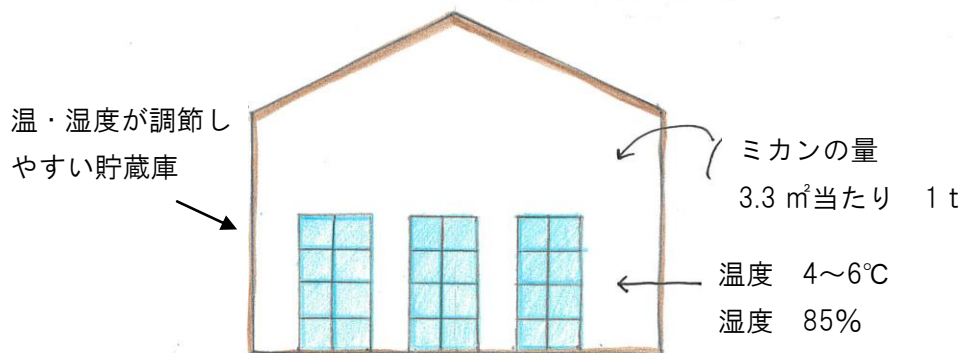
各作物について防除履歴の記帳を徹底しましょう。

柑橘

①貯蔵庫内の管理

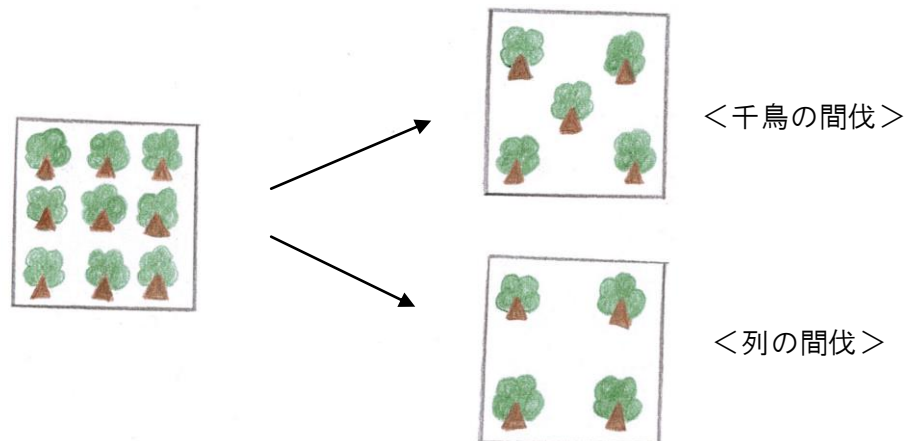
腐敗果の除去、換気等をこまめに実施しましょう。

<中・長期貯蔵>



②間伐

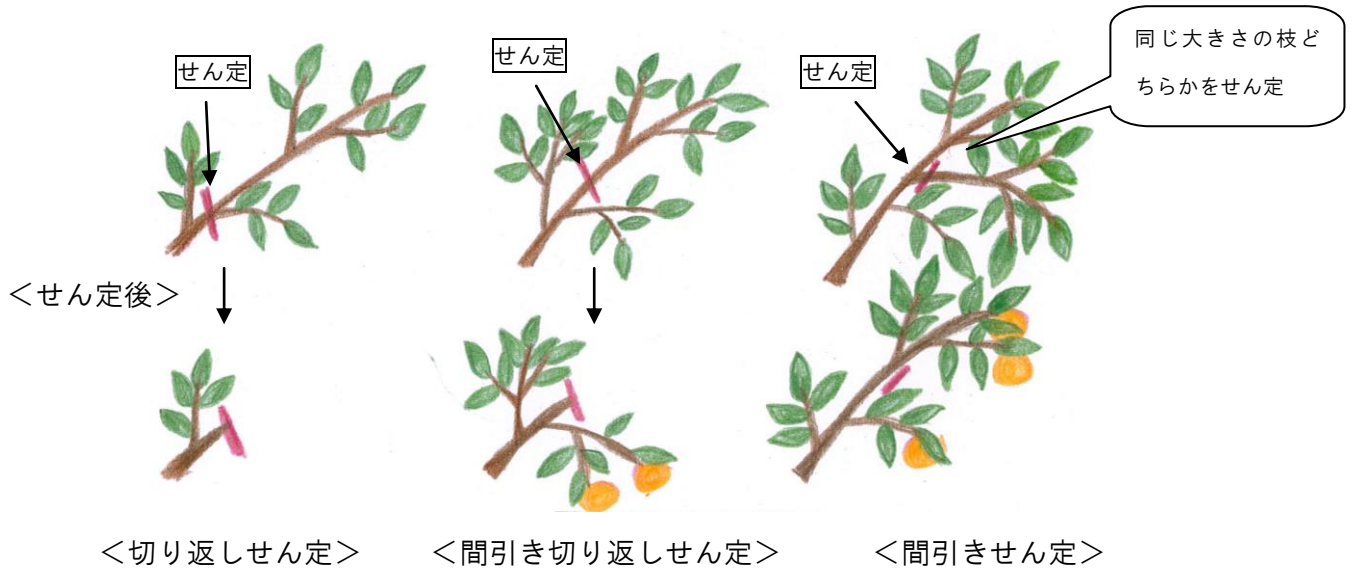
密植では高品質なミカン生産は望めません。樹冠と樹冠の間隔は1mは必要です。剪定を始める前に積極的に間伐を行いましょう。



③ 剪定

管内の青島は、園地、樹毎に依じて剪定が必要となります。

令和2年産は表年が予測されますので、例年より早めに剪定を始めましょう。
また、夏秋梢を除去していない園地では、必ず除去しておきましょう。



※青島は樹勢が強い系統ですので、切り返し剪定は避けましょう。
又、剪定と併せ、枯れ枝の除去も行いましょう。

④ 土壌管理

近年、苦土石灰の施用量減少により土壌が酸性化しています。pHの改善に努めましょう。また、有機物も積極的に投入しましょう。

時期	肥料名	10a当り施肥量
2月中旬	苦土セルカ2号	100kg
	新ふりかけ堆肥eco	100kg

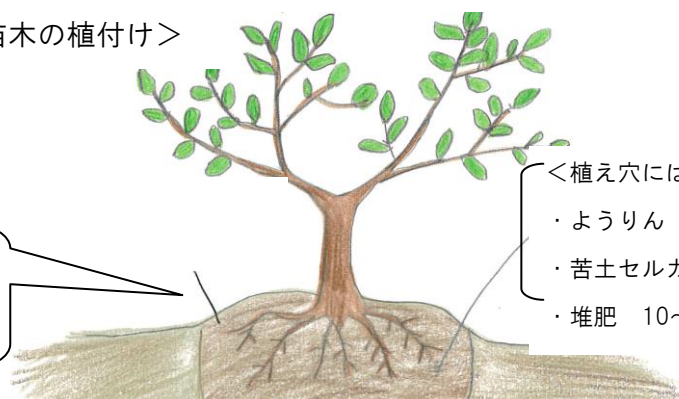
⑤ 改植準備

今春改植を実施する方は、植穴を早めに準備し、下記の通りに良く混ぜておきましょう。

<苗木の植付け>

植穴：直径・深さ50cm以上

土と肥料はよく混ぜましょう！



<植え穴には>

- ・ ようりん 500g
- ・ 苦土セルカ 2kg
- ・ 堆肥 10~20kg

柿

2月は引き続き休眠期になります。苦土石灰・有機物を施用しましょう。

時 期	肥料名	10a 当り施肥量
2月上旬	苦土石灰	100kg
	新ふりかけ堆肥 eco	100kg

梅

2月上旬から開花期になります。特に管理はありません。

栗

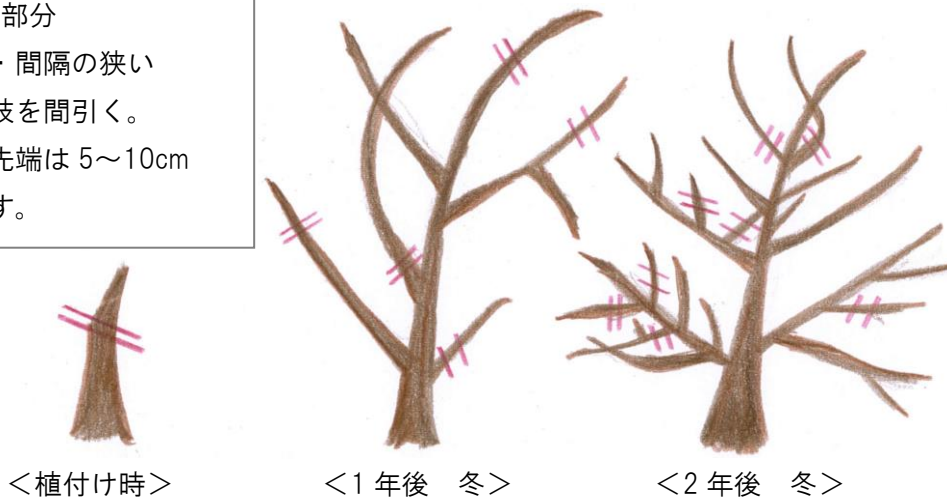
2月は引き続き休眠期で、整枝・剪定時期になります。

①整枝・剪定

- 仕立て方は3～4年間は軽い剪定にとどめ、旺盛に生育させましょう。
- 日陰になると枯れ枝が発生するので、枝が重ならないようにしましょう。
- 5～7年目（樹高が3.5mに達したとき）には、心抜きを行い、2～3本仕立て（開心自然形）にします。

赤線：剪定部分

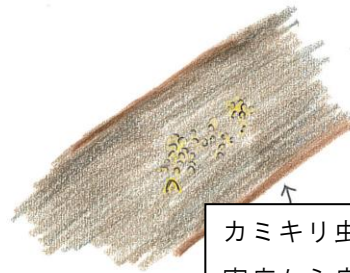
- ・逆行枝・間隔の狭い重なり枝を間引く。
- ・新梢の先端は5～10cm切り戻す。



②病虫害防除

●胴枯病●

樹冠を食害する害虫の被害痕から発病することが多いので、樹を食い荒らす樹冠害虫を駆除しましょう。病患部を削りとった直後にトップジンMペーストなどの癒合殺菌剤を塗って切り口をふさぎ、病原菌が侵入できないようにしましょう。



カミキリ虫類の食害痕から病菌が侵入する。

<多発時期>

気温が10℃以上の日が続く、期間中感染

<症状>

傷口部分が赤、黒褐色に変色し、ややくぼみ、後に小斑点が多数形成され、樹皮の表面がざらざらとした感触となる

農薬名	使用方法
トップジンMペースト	病患部を削り取り直後 3回以内使用可能

いちじく

剪定 2月中旬～3月上旬

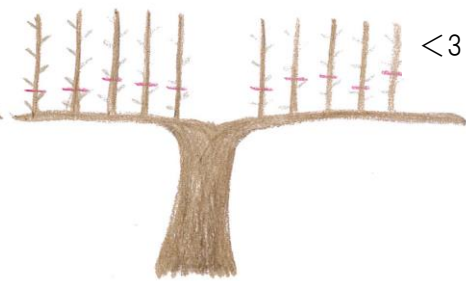
前年の結果母枝の基部の2芽を残して切除しましょう。また、年数が経過するにつれて長くなり過ぎた場合は、主枝に近い部位まで戻って更新しましょう。

剪定枝

<2年目>



1/2～1/3 程度
切り詰める。



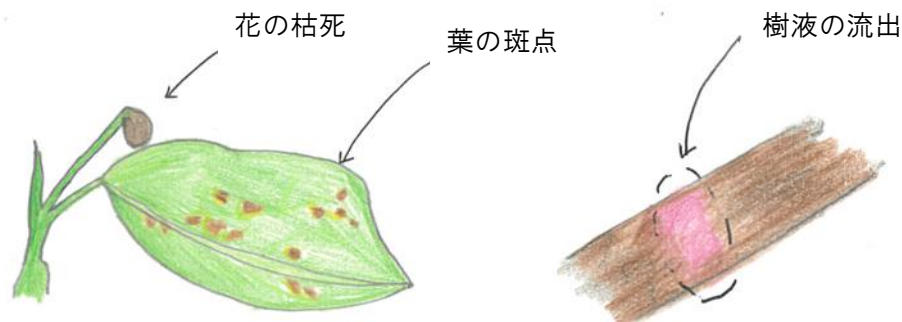
<3年目>

基部の2芽を残して、
芽と芽の間で切る。

キウイ

①病害虫防除

●かいよう病●



<防除方法>

- 発病樹は早期に伐採し発生源を絶つ必要があります。残渣は焼却処分しましょう。
- 発病樹の伐採に用いた器具は70%エタノールで必ず消毒して下さい。

<農薬散布> ※剪定・棚付け終了後

農薬名	倍率	使用時期	水100リットル当たり
コサイド3000	2,000倍	収穫後～果実肥大期	50g

②剪定切り口の保護

※ 樹液流動が始まる2月上旬までに行うようにしましょう。

太い切り口には枯れ込み防止として、「トップジンMペースト」等を塗布し、保護しましょう。

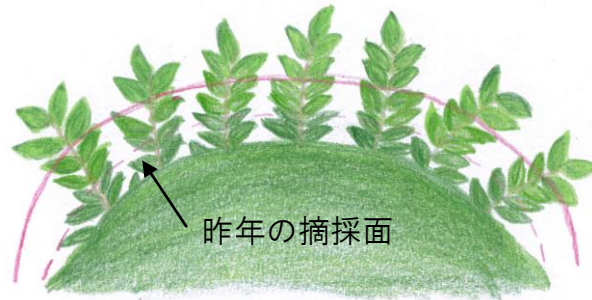
③剪定枝・落葉処理

剪定後、剪定枝・落葉は焼却しましょう。

茶

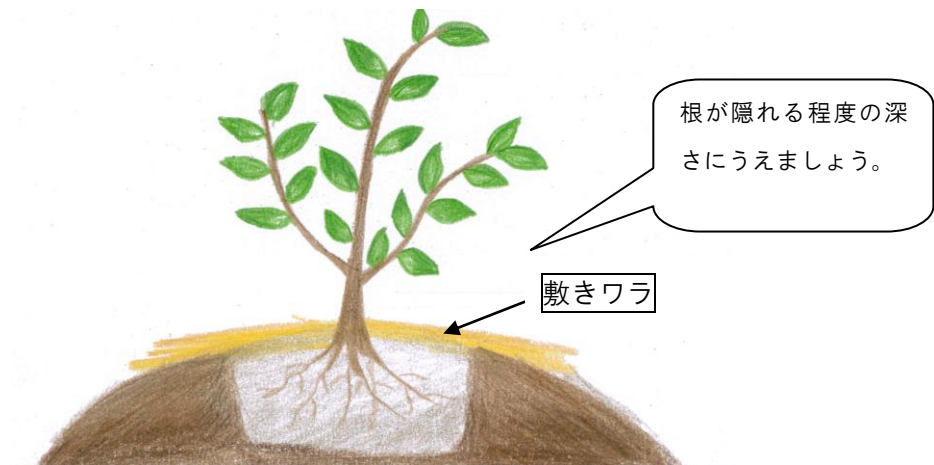
①春整枝

秋整枝をしなかった所は、2月下旬から3月上旬に軽く整枝しましょう。
深く整枝すると芽数が少なくなり、不揃いになりやすいので注意しましょう。



②苗木の定植

茶苗木の根は非常に弱いので、直射日光や風などを避け、乾燥させないように気をつけましょう。なお、植え穴には堆肥や鶏ふんなどを施用して、土とよく混ぜておきましょう。



やさいづくり

永年作物と違い、比較的短期間で収穫する野菜類は、次々と栽培する作物が変化していく為、その組み合わせ方が重要なポイントとなってきます。

簡単な基礎知識を習得し、作付けに活かすことが大切です。

①連作と輪作について

同じ種類（グループ）の野菜を、毎回同じ場所で栽培することを「連作」といいます。

ナス・トマト・ジャガイモとも同じナス科の野菜である為、ナスの栽培後に再びナスを植え付けたり、トマトの栽培後に同じグループ（科名）のジャガイモを植え付けたりすると、一定の病害（土壌病害を含む）が増加したり、土中の特定肥料成分が極端に増減し、作物が順調に育たなくなります。

そのようにならない為にも、畑を区分けする等して、栽培する作物の種類を順繰りに変え、同じ場所で続けて栽培しないように種類を組み合わせる「輪作」が必要となってきます。

<野菜のグループ分け>

科名	作物名
ナス科	ナス・トマト・ピーマン・トウガラシ ジャガイモ
ウリ科	キュウリ・ヒョウタン・シロウリ・トウガン・ カボチャ・メロン・スイカ・ヘチマ
アブラナ科	ハクサイ・タイサイ・ミズナ・カラシナ・タカナ・ キャベツ・ブロッコリー・メキャベツ・ コールラビー・クレソン・コマツナ・カブ・ ダイコン・ラディッシュ・ワサビ
イネ科	トウモロコシ
アオイ科	オクラ
マメ科	インゲン・ササゲ・フジマメ・エダマメ・ナタマメ・ ソラマメ・エンドウ・ラッカセイ
アカザ科	ハウレンソウ・フダンソウ・オカヒジキ・ビート
セリ科	セルリー・パセリー・ミツバ・フェンネル・セリ・ アシタバ・ニンジン
ユリ科	ネギ・リーキ・ワケギ・アサツキ・ニラ・ニンニク・ ラッキョウ・タマネギ・ アスパラガス
キク科	レタス・シュンギク・アーティチョーク・フキ・ ゴボウ
ヒルガオ科	サツマイモ

②土づくり

野菜は種まき（定植）時の土壌条件が初期生育を大きく左右するので、土づくりが特に重要になってきます。

作土は深いほど根が吸収できる養分総量が増加するので、野菜の生育が安定します。そして、深い有効土層、透水性の改善で根の発達が旺盛となり、生育が健全となります。葉もの等は深さ 25 cm、ダイコン等根菜類は深さ 30～40cm を目標に耕しましょう。

作物を栽培する土に求められる要素は、

- ①無病であること
 - ②土の酸度が適正であること
 - ③保水力があること
 - ④排水性が良いこと
 - ⑤通気性が良いこと
- です。

中でも③・④・⑤は堆肥等の有機物によってバランスが保たれています。普通有機物は、半年から 1 年で土壌中の微生物等によって分解され、土に還元されます。そのため 1 年に最低 1 回は十分な有機物の投与が必要です。

土中の有機物が不足すると、根の生育が不十分となり、通気・排水不良から根腐れなどの原因となることがあります。地力を高め、生育を向上させるには土づくりが大切です。堆肥や腐葉土などの有機物を投入し、土が軟らかくなるよう深耕します。

- ※ ・不明な点は、営農生活課(45-6585)へお問い合わせください。
・農薬購入には、印鑑が必要な場合があります。必ずお持ち下さい。
・詳しいことは、農協広報誌、ホームページの営農情報
(<http://ja-airaizu.jp/archives/category/nouka>) を参考にして下さい。